

島根高P連だより

第69号

2025.12.15

発行
編集

島根県高等学校PTA連合会事務局

松江市黒田町538 TEL/0852-22-8602 FAX/0852-22-8735

E-mail: shimakp@orange.ocn.ne.jp URL: https://shimakp.jp/

高P連
ホームページの
QRコード



伊福聡全国高P連副会長 挨拶

第67回

中国・四国地区高等学校
PTA連合会大会

島根大会
特集



石原恵利子副知事 祝辞



記念講演 山根公利氏



研究協議 隠岐高校 PTA



受付の様子



案内

目次

- 2 「第67回中・四国高P連大会島根大会のお礼」
島根大会実行委員会委員長 原 完次
第67回中・四国高P連大会島根大会の概要
- 6 第74回全国高P連大会三重大会
- 7 全国高P連会長表彰実践報告 松江東高校PTA
- 8 全国高P連会長表彰実践報告 吉賀高校PTA
全国高P連会長表彰(個人)
- 9 世界大会出場 会長激励費贈呈 横田高校ホッケー部
出雲農林高校力又一部
- 10 世界大会出場 会長激励費贈呈 島根中央高校力又一部
幼こども園・小中・高・特別支援PTA合同研修会



神話の郷に集う縁

～新時代を生き抜く力を～

大会シンボルマーク



大会案内



大会要項

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会

島根大会開催協力のお礼



第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会
実行委員会委員長

原 完次

令和7年7月11日(金)、松江市のくにびきメッセにて開催いたしました「第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会」は、中四国の高校から総勢1104名のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

本大会は「神話の郷に集う縁」新時代を生き抜く力をテーマに、研究協議を通して参加者一人ひとりが学びと感動を共有する有意義な時間となったのではないかと思います。

まず、開会に際しまして、島根県立松江北高等学校の安部沙彩さんによる国歌独唱では、その透き通った歌声は会場全体を魅了し、これから始まる大会への期待を一層高めました。

また、高校生による活動発表では、島根県立浜田商業高等学校郷土芸能部による迫力ある石見神楽、松江市立皆美が丘女子高等学校ダンス部の息の合ったダンス、島根県立出雲農林高等学校出雲太鼓部による力強い和太鼓が披露され、若い力と文化の融合に、参加者全員が圧倒されました。また、松江工業、松江農林、江津工業、浜田水産の各高校による物

産販売も大盛況で、用意された商品は瞬く間に完売となりました。

そして、研究協議では、岡山県・金光学園中学高等学校、愛媛県・今治東中等教育学校、島根県・隠岐高等学校のPTAがそれぞれの取り組みを発表し、地域を越えて学び合う貴重な場となり今後のPTA活動への参考になったのではないだろうか。

記念講演では、山根公利氏をお迎えし、「17から生まれる人の幸せとは何か?」をテーマに講演いただきました。山根氏が自身のUターンを通して見出した地域との繋がりや、地方でもクリエイティブな活動ができる可能性、そしてネット社会だからこそ必要な「ホンモノに触れる」体験の大切さについてお話しいただき、多くの参加者に深い気づきを与えました。

最後になりますが、円滑な運営にご尽力いただいた松江市・安来市の高等学校PTAの皆様に心より感謝申し上げます。皆様の協力があつてこそ、この大会は成功を収めることができました。今後もこのご縁を大切に、中国・四国地区の各高校でのPTA活動がさらに発展することを願います。

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会
島根大会成功裡に終了

概要

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会

島根大会は「神話の郷に集う縁」新時代を生き抜く力をテーマに7月11日(金)にくにびきメッセで開催され、県内514名、県外590名の合計1104人の参加があつた。



会場近くの大型ビジョン

大会日程

9時00分～9時30分 受付
9時40分～10時20分 開会行事
10時30分～12時00分 記念講演「17から生まれる人の幸せとは何か?」

メックデザイナー 山根公利氏
昼食

12時00分～13時00分
13時00分～14時00分
14時00分～15時40分

① 島根県立浜田商業高等学校

② 松江市立皆美が丘女子高等学校

③ 島根県立出雲農林高等学校

14時10分～15時40分

研究協議

① 岡山県 金光学園中学・高等学校やつなみ保護者会

「子と親に育つ」

② 愛媛県 愛媛県立今治東中等教育学校PTA

「生徒の夢を支えるPTAの役割」

③ 島根県 島根県立隠岐高等学校PTA

「人情の島が創る隠岐高校」

15時45分～16時00分 閉会行事

会長 藤井 秀和氏

会長 ビアース 恵利氏

会長 島井 登氏

開会行事

最初に、島根大会実行委員会副委員長の曳野貴志氏が開式の辞を述べた。続いて、島根県立松江北高校の安部沙彩さんによる国歌独唱が行われ、その後、原完次実行委員会委員長、伊福聡全国高P連副会長、野津建一島根県教育委員会教育長が、主催者および共催者を代表して挨拶を述べた。その後、来賓の石原恵利子島根県副知事、および藤原亮彦松江市副市長より、歓迎の挨拶をいただいた。

原完次委員長は挨拶の中で、PTAは単なるボランティア団体ではないと強調した。PTAが社会教育に関する事業を通じて地域文化



野津建二島根県教育長「挨拶」



曳野貴志県高P連会長「開式の辞」



藤原亮彦松江市副市長「祝辞」



国歌独唱 安部 沙彩さん

や社会福祉の増進へと貢献する「自主的な社会教育団体」であると定義した上で、「子供たちのために何がしたいか」という共通の想いのもと、多様な参加者が互いの知識や技術を持ち寄り、共に考え、学び、行動する姿勢こそが最も大切な役割だと訴えた。



総合司会 赤池忍 松江北高校会長

記念講演

「ITから生まれる人の幸せとは何か？」

メカニクデザイナー 山根公利氏

島根県を拠点に活動されている、アニメやゲームに登場する機械をデザインする日本屈指メカニクデザイナー、山根公利氏は、日本のコンテンツ産業の急成長（経済規模3兆円）を背景に、IT全盛時代における自身のキャリアと幸福論を語った。

山根氏はまず、IT（ICT、IoT、AI）の進化に触れ、過去のSF映画が描いたAIの反乱というディストピア的未来から、人類が進化を続ける可能性について言及。このITを現実の生活スタイルを変えるために活用しようとして決意し、企画が画一化していた東京のアニメ業界を離れ、2000年に故郷の島根へUターンした。当時はFAXが主流だったが、仕事が元々リモート中心だったため、島根での仕事が可能だと判断した。

島根での生活は、山根氏のクリエイターと

しての本質的な部分を見つめ直すきっかけとなった。東京では難しかった車の整備などを通じて、「本物の機械に触れること」を実践。江津工業高校で学んだ構造や素材の知識と、実物の硬さや重さの体感が結びつき、フィクションでありながら「実在感のある」緻密なデザインを生み出す原動力となった。このデザインの個性は国内外で高く評価されている。また、自動車クラブを通じた地元アニメーター大塚康夫氏の顕彰活動や、地元美術館での展示など、地域社会との繋がりが仕事の励みとなっている。

経済的な自立のため過酷な新聞奨学生制度を利用して専門学校を卒業した自身の歩みを語り、クリエイターには困難を乗り越えられるほどの「好き」と情熱が不可欠であると強調した。

AI技術の進化については、AIが緻密な絵を描ける時代になっても、著作権や信頼性の問題から全てを代替するには至っていないと指摘。クリエイターの真価は、その人が育った環境や文化、すなわち「ルーツ」から来る個性と想像力にあり、そここそがAI時代における差別化要因になると説く。

最後に、情報過多な現代において、ITやAIとは「ほどよく利用して付き合う」ことが重要であると結論づけた。情報量が少なかったからこそ育まれた「物思いにふける時間」と「想像力」、そしてSNSに依存するのではなく



記念講演講師 山根 公利氏

「現実の身近な幸せ」を大切にすることが、IT全盛時代を生き抜く真の幸福感につながることを締めくくられた。

□当日実施した「記念講演」に関するアンケートより（抜粋）

- ・「故郷の文化を基にした創造は、外の世界では個性になる」という言葉は、その通りだと思う。
- ・アニメを含むデザインは都会で大部分行っているものと思いましたが、考えをリセットするためにUターンされたこと、軌道になるまでの苦労や体験などとても参考になる話を聞かせていただきました。
- ・自分の知らない分野でのお話で、視野が広がりました。
- ・ITが発達しても人の手が不要にならない、人の手が必要な部分があることが、先端を行く方からのお話を伺えて良かったです。
- ・「好きだからできる仕事これにつけると共感しました。
- ・工業高校での学びがアニメ制作に大いに役立っていること、その根底には島根での育ちや生活が影響していることに感銘を受けました。
- ・様々な気づきを与えていただきました。特に自分が生まれ育った環境が作品に影響する、文化を継承していくというお話に地方創生のヒントが得られました。
- ・何事ものいるような面であつて、子供の「夢中になれるもの」を応援したいと思いました。
- ・今はインターネットですぐに情報が手に入られる時代ですが、自分の子供には本物を見て触れる機会を与えたいと思いました。
- ・子供の夢中になれるものを伸ばしていける親でありたいと思うことができました。

高校生の活動発表

開会行事では、島根県立松江北高校の安部沙彩さんによる「国歌独唱」が行われた。

午後からは、島根県の3校の高校生による活動発表が行われた。島根県立浜田商業高校郷土芸能部の石見神楽「大蛇」、松江市立皆美が丘女子高校ダンス部の「MGD Dance Performance」、島根県立出雲農林高校出農太鼓部の「疾風迅雷 新七兵衛太鼓」の発表が行われ、どの発表も迫力満点で、生き生きとした演奏やパフォーマンスをしている高校生の姿に観客は圧倒された様子だった。



出雲農林高校 出農太鼓部



皆美が丘女子高校 ダンス部



浜田商業高校 郷土芸能部

□当日実施した「高校生の活動発表」に関するアンケートより（抜粋）

- ・最初の開会行事でいきなり高校生の美しい声の国歌独唱にびっくりし、感動しました。
- ・国歌独唱は、みずみずしく伸びやかな歌声で、君が代がともステキに聞こえました。
- ・高校生による透き通った歌声での国歌独唱は、開会式にふさわしい素晴らしいもので、魅了されました。
- ・伝統を受け継ぐ高校生の姿に感動しました。神楽を見られただけでも来た甲斐が

研究協議

ありました。

- ・石見神楽を初めて見ました。とても素晴らしい、わくわくして最後まで楽しませてもらいました。
- ・オコチたちもまるで生きているような動きで素晴らしいかったです。これからも伝統を守ってください。
- ・ダンス部の演技はキレイしで、感動しました。
- ・皆さん笑顔で、楽しさが伝わってくるダンスでした。
- ・一人一人のダンスの技術が素晴らしいかったです。
- ・高校生らしいかわいさ、かっこよさがあって良かったです。
- ・和太鼓の力強いバチさばきのかっこよさ、小さい子供があがれるのもよくわかります。
- ・和太鼓の音がそろって、練習量がすごいと思われた。
- ・とても感動した。真剣な表情や笑顔、切れのある動き、息切れたインテンシティなど、力の入れ具合が伝わってきた。
- ・初めて伝統芸能をじっくり鑑賞しました。こんなに伝統芸能が心に響くとは思いませんでした。高校生の皆さんが本気で取り組み、伝統を大切にしているという思いがすごく伝わり、感動しました。日本の文化をこれからも大切にしたいと思いました。
- ・どの学校の生徒も一生懸命で、心打たれました。子供たちが何かに打ち込む姿は勇気をもてます。

岡山県、愛媛県、島根県の三校の代表者により、各校のPTA活動について発表が行われた。その後、参加者との間で活発な質疑応答

が交わされた。参加者からは「様々な高校の取り組みを知ることができ、大変興味深く、参考になりました。いずれの活動も、子供たちの将来を見守る夢のある取り組みだと感じました」といった声が聞かれ、本研究協議は、多くの声援に富む、非常に有意義なものとなった。

岡山県

金光学園中学・高等学校やつなみ保護者会

会長 藤井 秀和氏

「子とともに育つ」

～金光学園やつなみ保護者会の歩み～

金光学園中学・高等学校やつなみ保護者会長である藤井秀和氏は、78年にわたる保護者会の歩みと「子とともに育つ」理念を紹介した。この理念は金光教四代教主の歌に由来し、親も子と共に成長し、「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」という学園の合言葉を実践することを目指す。学園は全人教育を掲げ、グローバル教育（中学でのオーストラリア研修など）を通じて「世のお役に立つ人材の育成」に取り組んでいる。

保護者会は昭和23年発足。「やつなみ」（八つの波の意）として活動し、指導部・教養部・庶務部の三部制で運営されている（会員810名、役員109名）。主な活動は、地域交流の「地区会」、機関誌「やつなみ」（創刊270号超）、親睦を図る



金光学園やつなみ保護者会の発表

「研修旅行」や「やつなみサークル」などがある。特に文化祭での「友愛セール」は、収益を生徒の学習環境整備（トイレ改修、端末購入等）に充て、学校へ大きく貢献。この長年の活動が評価され、全国高等学校PTA連合会会長表彰（3度）や令和5年（2023年）の文部科学大臣表彰を受賞した。

しかし、近年は総会参加率の減少という課題に直面している。同会は、7年間培った活動の素晴らしさを継承し、「よきことの話題にのぼる きをれば 世にあかるさの 加はるごとし」の歌の精神に基づき、課題克服と活動の充実を継続し、子供たちのため、平和な世の中のために貢献していく決意を表明した。

愛媛県

愛媛県立今治東中等教育学校PTA

会長 ヒアース 恵利氏

「生徒の夢を支えるPTAの役割」

～教職員との連携による6年間の教育支援～

愛媛県立今治東中等教育学校は中高一貫校として誠実・錬磨・創造を校訓に掲げ、生徒の個性を伸ばす6年間の一貫教育を実践。2026年度には後期課程にスポーツコースを新設するなど、多様な進路選択肢を提供している。

PTAは会長、副会長、理事などから構成され、総務、人権教育、進路指導、生活指導の4つの専門委員会を中心に活動を展開。教職員と緊密に連携し、生徒の学校生活を多角的に支援している。

主な活動には、会員相互の親睦や進路意識

向上を目的とした

大学訪問付きの「研修旅行」、運動会での飲食物販売、そして文化祭「青藍祭」での「PTAバザー」がある。特にバザーでは、生徒の研究活動支援として培養肉を使用した焼肉を提供し、生徒の主體的な学びを支えた。さらに、教職員との懇親会や生徒会との座談会を通じ、学校運営への理解と協力を深めている。

特筆すべきは、地域の山林火災を教訓に、PTAの発案でドローン体験を防災避難訓練に導入したことである。これにより、災害時の情報収集の有効性を生徒が実感し、防災への関心を高めることに貢献した。

同会は、今後も教職員と一体となって協力し、生徒たちが自分らしさを発揮しながら将来の夢に向かって歩めるよう、6年間の学校行事と充実した学校生活を支えていく決意を表明した。

島根県

島根県立隠岐高等学校PTA

会長 鳥井 登氏

「人情の島が創る隠岐高校」

～地域が育む高校魅力化～

離島にある小規模校である隠岐高校が地域と一体となつて進める「高校魅力化」の取り組みについて発表があった。同校は創立100周年を迎え、島外からの生徒も寮で受け入れ、



今治東中等教育学校PTAの発表

地域全体を学びの土壌としている。

教育目標は「未来を拓く、自立した生徒の育成」であり、この目標を具現化するため「隠岐高等学校魅力化「コンソーシアム」を組織し、地域との連携を構築。ブランドデザインの中心に「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」を位置づけ、ジオパーク研究を必修科目として1年生から3年間段階的に探求学習を深めている。生徒たちはその成果を国内だけでなく、アジア太平洋ジオパーク大会など世界まで広げ、英語でプレゼンテーションを行っている。

また、キャリア教育の一環として中高生を対象とした合同企業説明会「ジョブフェア」を町と連携して実施し、将来の進路選択の意識付けを図る。伝統文化の継承にも注力しており、商業科生徒が牛突きなどの歴史と現状を調査して小学生に紹介する活動や、地域の師範による三味線での隠岐民謡指導を授業に取り入れている。その他、「放課後先生」活動やウルトラマラソンでの演奏ボランティアなど、生徒が積極的に地域貢献活動に参加している。

PTAは文化祭での模擬店や校則見直しへの参画を通じて学校運営を支援。島井会長は、高校卒業後に9割

の生徒が島外へ出る現状を踏まえ、生徒が「ふるさとを誇りを持って語れる人」になり、いつか

隠岐の島を意識した人生の選択をし



隠岐高校島井会長の発表

てくれることを願っている。今後は活動の「見える化」と情報発信に努め、次世代にとって魅力的な学校となることで、「よかつたが響く町、隠岐の島」の実現に貢献していくと結んだ。

〈質疑応答〉

3校の発表の後、質疑応答が行われた。

○今治東中等教育学校への質問

(PTAと教職員の連携)

働き方改革が進む中で教職員との「コミュニケーション」をいかに円滑に図っているかについて質問があった。

今治東のピアース会長は、「コロナ以前からの継続的な活動に加え、校長や管理職が前向きに検討してくれる姿勢、そして理事会前の短い時間や少人数での非公式な対話機会を積極的に設けている点を挙げた。特に「個室」を用意するなど、教職員が安心して参加できる環境を整えていることも成功のポイントだと述べた。

○中高貫校への質問(保護者の悩みへの対応)
義務教育から成人までの激動の6年間を過ごす生徒だけでなく、保護者自身の悩みを吸収・解消するための取り組みがあるかについて質問があった。

金光学園の藤井会長は、エリア別で開催される「地区会」や全役員会など、教員も交えた「集まる機会の多さ」が保護者間の情報共有や悩み解決に繋がっていると回答。今治東のピアース会長は、直接的な悩み相談の場は少ないとしつつも、理事会前の時間を利用して理事の悩みを本部が吸い上げる取り組みを行っている現状を述べた。

○隠岐高校への質問(卒業生の島外流出対策)
卒業生の9割が島外へ出る現状と、その対策について質問があった。隠岐高校の島井会長は、高校単体ではなく町全体で取り組

むべき問題だと強調。生徒に対しては、「度外に出て大きな世界を見た上で」「ふるさと隠岐を誇りを持って語れる人」になってほしいと伝えている。行政としては、Uターン・Iターンを促す移住政策(家賃補助、空き家改修補助など)、マルチワーカー制度などを展開し、若年層の人口減少に長期的な視点で対応していると説明した。

□当日実施した「研究協議」に関するアンケートより(抜粋)

- ・「子どもにも親も育つ」という日頃のPTA活動で思っていることに共感できた。
- ・「子供が生まれたことで親になる。親も子も学ぶ」という言葉が心に残り、大切な言葉だと感じた。
- ・活動者同士の「コラボレーションや、子供の学びを様々な形で支援する工夫された意欲的な取り組みがなされており、とても参考になった。
- ・教員と保護者の関係が良好で、物事がスムーズに進んでいると思いました。
- ・保護者間の親睦が深まり、活動が活発になるのだと感じました。研修旅行も興味深かったです。
- ・少子化の中での高校の役割としてPTAができることについて話し合う機会があればよいというご意見はその通りだと思いました。
- ・学校と地域のことを誇らしく話されていることが印象に残った。

閉会行事

来年の開催地である香川県高松市のPRビデオが上映され、香川県高P連の杉本勝利会長が次期大会への参加を呼びかけた。

続いて、原完次委員長が閉会の挨拶を行う

た。原委員長は、大会に携わったすべての方々に深く感謝を述べた後、大会テーマ「神話の郷に集う縁々新時代を生き抜く力」に言及した。そして、厳しい時代を迎えるPTA活動において、参加者が今回の学びとネットワークを各単Pや家庭・職場へと活かし、来年の香川大会に向けて連携を強化していくよう呼びかけ、大会を締めくくった。

最後に、竹下耕一副委員長が感謝の気持ちを込めて閉会の辞を述べ、島根大会は盛会のうちに幕を閉じた。

大会当日のアンケートでは、大会全体を通じて、「非常に勉強になった」「参加してよかった」「来年の大会にもぜひ参加したい」といった意見が多数寄せられた。また、閉会時の見送りでは、手のひらに「感謝」と書いて手を振る参加者グループも見受けられ、実行委員会一同、深く感動した。本大会は、PTA役員や教職員が一堂に会し、子どもたちの未来のために何ができるのかを改めて深く考える貴重な機会となった。



お見送り



次回開催地香川県高P連会長挨拶



原完次委員長 閉会の挨拶

高校生の物産販売

本大会では、島根県の高校生が生産した物品を販売し、高校生の活動にPTA会員が理解を深める機会とすることを目的に、「高校生の物産販売」が行われた。

○出品高校と物産

- | | |
|--------------|--------------------|
| 島根県立松江工業高等学校 | 【イライラ棒(ミニキット)】 |
| 島根県立松江農林高等学校 | 【イチ「ジャム、マーメイドジャム等】 |
| 島根県立江津工業高等学校 | 【「デジファブ」作品の小物等】 |
| 島根県立浜田水産高等学校 | 【「サバ味付け缶詰・マグロ油漬缶詰」 |

□当日実施した「高校生の物産販売」に関するアンケートより(抜粋)

- ・イライラ棒購入しました。家で作ってみるのが楽しみです。
- ・イライラ棒を子供のお土産に購入しました。工業高校の作品は面白いですね。
- ・ジャムは安いのに、丁寧な接客をしていただき、感謝しました。
- ・わが高校も農業高校で、たくさん品物を文化祭で出品しますが、子供が頑張った作品は素晴らしいですね。
- ・木工とデザイン、加工技術が実習できているとわかりました。
- ・ふくちゃんがかわいかったです。買えて良かったです。
- ・手頃な値段にもかかわらず、フンタンやコースター等があり、購入しました。
- ・木工のガチャガチャには感動しました。面白かった。同じ工業高校として参考になりました。
- ・高校生の技術の高さにびっくりしました。説明も高校生が行っていて良かったです。
- ・生徒さんも親切で、「カプセル開けましょうか」と声をかけてくれて嬉しかったです。
- ・サバ缶が一瞬で売り切れており、商品に対する高校生のプロ意識を感じる品ばかりで、素晴らしいかったです。
- ・自分たちの生み出したものを誇りを持って販売されている姿に、同じ年齢の子を持つ親としても嬉しくなりました。



浜田水産高校



江津工業高校



松江農林高校



松江工業高校

第74回

全国高等学校PTA連合会大会 三重大会

出会いはじまる常若のくに

「集い、想い、継なぐ」三つの重なる明日への力

今年の全国大会は8月21日(木)、22日(金)に三重県津市産業スポーツセンターで開催された。全国から6,000人を越えるPTA関係者が集い、島根県からも26校46名が参加した。また、アーカイブ配信も行われ、島根県からは2校が参加した。

○大会第1日目

開会式と表彰式が行われた。表彰式では、島根県からは次の団体と個人が受賞された。

全国高P連会長表彰(団体)

- ・松江東高校PTA
- ・吉賀高校PTA

全国高P連会長表彰(役員)

- ・木村直樹さん
- ・原完次さん
- ・令和6年度高P連会長、島根大会実行委員会委員長

その後、4つの分科会が行われ、それぞれ講演の後、パネルディスカッション等が行われた。

□各分科会のテーマ

第1分科会

「子育て、そして親育ち」言葉の力を磨き、子どもの心の声を聴こう

第2分科会

「実力発揮のコツ」無名公立高校2校を

甲子園に導いた元監督が伝授！

第3分科会

「AI時代におけるWell-Beingなキャリアデザイン」青春期における感情・感動体験の重要性

第4分科会

「Let's PTA」これからのPTA活動を考える

□第2分科会 基調講演 概要

三重県の県立高校2校で23年間野球部の監督を務めた松葉健司氏による基調講演が行われた。

松葉氏は長年の指導経験の中で、さまざまなタイプの生徒たちを見てきた。例えば、勉強や部活動に「生懸命」ながら結果が伴わない生徒、素晴らしい実力を持ちながら本番で発揮できない生徒、

逆に、少ない努力で結果を出す生徒や本番に強い生徒などである。

多くの生徒を観察し、対話を重ねて共通項を探る中で、松葉氏

が行き着いた結



開会式

論が「集中力」であった。

現代は情報が溢れ、価値観も多様化している。その結果、この「集中力」が低下しやすく、十分に実力を発揮しにくい状況が生まれており、ひいては自己実現への挑戦を妨げていると指摘した。

講演では、「心は循環させるもの」「心にはバランスがある」といった心の整え方や、「集中力アップのコツ」について、簡単な実技を交えながら、実力発揮のための具体的な秘訣が伝授された。

○大会2日目

□記念講演

井村屋株式会社代表取締役会長CEOの中島伸子氏による記念講演が開催された。演題は「『尊厳は明日の力』」壁を開ける手の中の鍵」で、自身の苦難を乗り越え、それを明日への力に変えた体験に基づくものであった。講演の概要は以下の通り。

中島伸子氏は、看板商品「あずきバー」をはじめとする多くのロングセラーブランドを持つ井村屋株式会社の会長を務めている。彼女の人生は数々の試練に満ちており、大学生時代には、死者30名、負傷者700名という甚大な被害を出した北陸トンネル火災事故に遭遇した。九死に生を得たが、一時は声をほとんど失い、夢であった教師への道を断念せざるを得なかった。生きる希望を見失いかけていた彼女を立ち直らせたのは、「君だけのプラスを採ることだ」という父親から

の言葉であった。

この「辛」に「」を加え「幸」にするという「プラス」の生き方を信条に、中島氏はアルバイトとして井村屋でのキャリアをスタートさせた。当時、女性が仕事を続けることは困難な時代であったが、アルバイトにも正社員と同等の機会を与える井村屋の社風に惹かれ、努力を重ねた結果、やがて女性初の経営者へと上り詰め、現在に至る。

また、彼女は母として、仕事と子育てを両立させ、3人の子どもを育て上げた。その際の信念として、「子どもは世界の宝であり、たまたま自分のところに生まれただけで世界の子どもの一人。未来からの授かりものである」「子を親は愛おしみ育て、社会に出す責任がある」「子どもは必ず良い点を持って生まれている」と紹介された。

最後に中島氏は、アメリカの思想家ラルフ・ワルド・エマーソンの言葉「すべての壁は扉だ。そしてその鍵はいつもあなたの手の中にある」を紹介し、聴講者に対し、困難を乗り越える力は自分自身の中にあることを示唆し、講演を力強く締めくくった。

第75回 全国高P連大会 大分大会

とき 令和8年8月20日(木)、21日(金)
ところ 大分市 別府市
会場 大分市 別府市
記録簿 真白くろ 親白くろ
「輝く未来を切り開け」
内川 聖一氏(元プロ野球選手)
演題「夢が導く 諦めない気持ち」

全国高P連会長表彰報告

松江東高等学校のPTAの取り組み

島根県立松江東高等学校 PTA会長 青山 強

令和七年八月二十一日(木)に開催された第74回全国高等学校PTA連合会三重大会において、一般社団法人全国PTA連合会の田名部智之会長より、表彰状をいただきました。本校PTA活動を評価していただいたものと思い、これまで活動を積み重ねてこられた会員のみなさまとともに喜びたいと思います。

松江東高等学校は昭和五十八年四月創立、令和五年度に創立四十周年を迎えた比較的新しい学校です。PTAは現在「研修委員会」と「広報委員会」で活動しており、研修委員会では学園祭である「東雲祭」でのかき氷出店やガーデニング講習会、広報委員会では年一回の広報誌発行を主な活動としております。

かき氷出店は、コロナ禍でいったん途絶えた東雲祭での飲食物提供の賑わいを取り戻そうと令和五年度から取り組んでおり、生徒にも好評です。

ガーデニング講習会は約三十年の歴史があり、地域の花屋さんでフラワーアレンジメントに取り組んでおられる講師の方をお招きし、保護者対象に「苔テラリウム」「多肉植物の寄せ植え」「ハーバリウム」などを二時

間程度かけて制作し、東雲祭で展示して文字通り花を添える活動です。例年多数の参加があり、にぎやかに制作を楽しんでくださっています。

実は講師の先生が高齢で今回を限りにご勇退されることになり、今回の表彰を先生の長年のご指導に対する感謝の意とともにお伝えいたしました。

来年からの活動は未定ですが、今後とも活気ある学園づくりの手助けとなれるように、さまざまな企画に取り組んでいきたいと思っています。



東雲祭かき氷出店



ガーデニング講習会

全国高P連会長表彰(団体の部) 実践報告

吉賀高校のPTAの取り組み

島根県立吉賀高等学校 PTA会長

石田 剛

本校PTAは、令和7年8月21日に開催された第74回全国高等学校PTA連合大会三重大会において、全国高P連会長表彰を受賞いたしました。栄えある表彰をいただけたことは、日頃より本校のPTA活動にご理解・ご協力を賜っている保護者の皆さま、教職員、地域の方々のお力添えの賜物であり、深く感謝申し上げます。

本校PTAでは、「生徒たちの豊かな学びと成長を、家庭と地域がともに支える」ことを目的に、年間を通してさまざまな活動に取り組んでいます。その中でも代表的な実践として、三つの活動をご紹介します。

一つ目は、毎年恒例となっている学園祭での無料カレーの提供です。当日は早朝から保護者が集まり、手分けして野菜を切り、数種類のルーを混ぜて大鍋で丁寧にカレーを調理します。今年は、小さなお子さま連れの来場者にも安心して楽しんでもいただけるよう甘口仕上げ、辛さを求める方には別添のスパイスを用意しました。また、生徒バザーの食品も楽しめるよう、小盛での提供とし、他の模擬店の妨げにならないよう配慮しました。さらに、模擬店運営で食事の時間が取れない生徒のもとにはカレーを直接届けるなど、温かな気配りも好評を博しました。

二つ目は、秋の交通安全週間に合わせて実施している「交通立ち番活動」です。PTA役

員が早朝に正門前に立ち、生徒の登校を見守るこの活動は、安全意識の向上のみならず、保護者と生徒・地域との交流の場ともなっており、毎年多くの協力を得て継続されています。

三つ目は、三年生の卒業時に発行するPTA会報の編集・制作です。一年間の活動報告に加え、保護者や教職員から卒業生への温かいメッセージも掲載し、生徒にとっては心に残る記念誌となっています。

これからも、生徒たちが安心して充実した学校生活を送れるよう、地域・家庭・学校が連携し、顔の見えるPTA活動を大切にしてまいります。



カレー盛り付け



カレー調理

全国高P連会長表彰報告

PTA活動の最終章に



島根県高P連顧問・令和5年度島根県高P連会長・松江北高校会長
第67回中・四国高P連島根大会準備委員会委員長

木村 直樹

令和5年度の島根県高等学校PTA連合会会長であり、現在は顧問として籍を置いています。木村直樹でございます。令和7年8月に開催された第74回全国高等学校PTA連合会大会三重大会において、全国高等学校PTA連合会会長表彰を受けることとなりました。たくさんの方のご協力やご助力あつての表彰授与であり、改めて今までのPTA活動に参加協力していただいたすべての方に感謝申し上げます。

私のPTA活動は子供が高校進学した令和3年度から始まります。最初は高校での副会長役からスタートし、その年度には第70回全国高等学校PTA連合会大会島根大会が島根県民会館で開催されました。その時には受付けとして大会に参加しましたが、コロナ禍の影響もありリモート併用での開催でもあったので、現地参加者は少なかつたのですが全国大会に少しでも触れる機会を頂きました。



吉賀高校石田剛会長と木村顧問

時が経ち私自身が会長となる令和5年度には仙台において大会が開催されますが、当日島根県のPTA連合会として関係者が出席空港に集合し、団体で大会の行程を含め行動していく

のですが、なぜか不思議なことに、当時まだあつた出雲空港からの仙台直行便が落雷にあり急遽欠航、伊丹空港経由で仙台入りし、予定時間を大幅に遅れた方の到着となりました。結果、分科会講演に参加できませんでした。

気を取り直して翌日の本大会には無事参加でき、とても暑い中で参加者も多かったことから立ち見で参加したことを覚えています。その後連日の行程をこなし、いざ仙台から伊丹空港を経由して帰路につくのですが、伊丹空港でも雷にあり、結果その日には帰ることはかなわず急遽伊丹空港近辺のホテルに泊まるという珍事件となりました。色々宿泊先探しに苦労したのですが、近隣のホテルが取れたことで何とか空港で一夜を明かす危機を回避することが出来、翌日に無事帰宅することが出来ました。振り返っても中々のトラブルでしたが、今では笑い話です。

今回の表彰で、私と同時に活動した山口と愛媛の会長も表彰を受け、私の後で会長を受けられた方も同日表彰されました。今までのPTA活動でたくさんの仲間も出来、私としては恵まれたPTAメンバーと貴重な時間が過ごせました。

今後も長い間たくさんの方がPTA活動に参加協力されると思いますが、よき時間と良い仲間巡りが合うことが出来ます。ぜひ今後多くの方にPTA活動に参加していただけることを切に願います。今後も高等学校PTA連合会の益々の発展を祈念して私の筆を置かせていただきます。ありがとうございました。

U18 ホッケーアジアカップ出場

会長激励費贈呈

島根県立横田高等学校 ホッケー部

県高P連では、当連合会に所属する高校の生徒やその生徒を指導する学校の指導者がスポーツ競技会やコンテスト・審査会等の世界大会に日本を代表して出場する場合に、その栄誉を称え、健闘を期待して会長激励費を贈呈することになっている。令和7年7月に中国の四川省達州市で開催されたホッケーのU18アジアカップに日本代表として出場した3年栗原莉来さん、古澤知由さん、上田龍太郎さん、2年吉岡真大さんに令和7年7月23日(水)に横田高校校長室で曳野貴志高P連会長が激励費を贈呈した。

○結果

・男子 リーグ戦を勝ち抜いて

準決勝 日本 6-4 バングラデシュ

決勝 日本 3-2 パキスタン 優勝

※上田選手と吉岡選手は得点を決めて活躍。

・女子 リーグ戦を勝ち抜いて

順位決定戦 日本 13-10 カザフスタン

日本 2-12 中国

決勝 日本 1-0 中国 優勝

※栗原選手は決勝戦のキーパーを務めた。

栗原選手には、代表して左記のように大会遠征時の手記を書いてもらった。

アジアカップに参加して

島根県立横田高等学校 三年 栗原 莉来

私は、7月3日から13日にかけて中国の達州市で行われた、AHFユースアジアカップに日本代表のGKとして出場し、優勝することができました。日本代表として国際大会に出場するのは2回目でしたが、アジアカップという大きな大会に出場するのはとても緊張しました。しかし、日本代表として戦つことの責任や誇りを感じながら大舞台に立てたことはとても嬉しかったです。

大会期間は10日間ととても長く、中国の慣れない環境の中で生活するのは大変でした。特に食事の面では初めて見る料理も多くあり、栄養を考えながら食事を摂ることが難しかったです。

試合では、計6試合行い、リーグ戦では順調に得点を重ね勝利することができました。しかし、中国代表との準決勝では、高い技術や戦術を持った選手が多くいて、自分たちの思うようなプレーがなかなかできず苦戦をしました。私もこの試合では、失点を許してしまい、世界との技術の差を感じました。しかし決勝戦では再び中国代表と対戦し、準決勝では同点でしたが、1対0で勝利することができました。準決勝の反省を活かしてプレーを行い、全員が最後まで諦めなかったからこそ掴んだアジア1位だと思いました。最高の仲間と最高の景色を見ることができてとても幸せでした。さらに頑張ろうと思います。

帰国後も、多くの人に祝福していただきました。優勝できたのもいつも支えてくださった方々の家族や地域の方、お世話になったすべての方々のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱい입니다。

これからもたくさんの方々にプレーや結果で恩返しができるよう努力し続けたいと思います。また、日本代表としてさらに活躍できるよう頑張ります。応援していただき本当にありがとうございました。



横田高校の4選手



贈呈式

2025アジアパシフィックカヌースプリント大会出場

会長激励費贈呈

島根県立出雲農林高等学校 カヌー部

石川県小松市で開催された2025アジアパシフィックカヌースプリント大会に、日本代表として出場した出雲農林高校カヌー部の宮原悠煌さん、松尾夏帆子さん、多々納未来さん、石原起人コーチに4月28日(月)出雲農林高校校長室で加村光夫副会長が激励費を贈呈した。出場種目と結果は次のとおり。

○結果

U16 女子カヤック・ペア

500m 多々納・(中西) 6位

U16 女子カヤック・フォア

500m 多々納・(他日本代表3名) 2位

U16 男女混合カヤック・ペア

200m 多々納・(塩谷) 予選5位

U16 男女混合・カヤック・リレー

200m×4 多々納・(他日本代表3名) 3位

U18 女子カヤック・ペア

500m 松尾・(橘) 6位

U18 女子カヤック・フォア

500m 松尾・(他日本代表3名) 4位

U18 男子カナディアン・ペア

500m 宮原・(仲宗根) 1位

松尾夏帆子選手には、代表して左記のように遠征時の手記を書いてもらった。

2025アジアパシフィックスプリントカップに出場して

島根県立出雲農林高等学校 カヌー部 三年 松尾 夏帆子

今回私は初めての国際大会に出場しました。2025アジアパシフィックスプリントカップは石川県小松市で開催され、インド、モンゴル、ニュージーランドなど、計6カ国の選手とレースを行いました。海外の選手たちの隣に並び、レースをすることは初めての経験で、国内大会とは異なる雰囲気や緊張感がありました。また試合期間に会場や宿泊先などで世界中から集まった選手たちと過ごした時間は、まるで日本ではないどこかにいるよう

な不思議な気分でした。

レースでは、カヤックペアとカヤックフォアの2種目に出場しました。どちらもチームで戦う種目だったので、日本各地から集まった代表選手と短期間で調整し、漕ぐことの難しさを感じましたが、一緒に漕ぐ選手と積極的に意見交換をし、レース展開について相談し合いました。話し合いを重ねることによって漕ぎの技術や戦略などについてお互いの考えを理解し合えたことは、私の今後の競技にも生かせる貴重な出来事でした。私自身の目標としていたメダル獲得は達成できず、悔しさの残る結果となりましたが、この悔しさをモチベーションに変え、さらに成長できるように努力していきたいです。

試合以外では、他の国の選手たちとの交流が印象に残っています。英語が得意ではない私ですが、カヌーという共通のスポーツを通じて、言葉の壁を越えて繋がれることを実感しました。さらに、国際交流を通じて今まで知らなかった国の文化などを知ることができました。この大会で得た経験を生かしてこれからの人生でも国際的なフィールドで活動し、国境を越えて多様な価値観を尊重し合う人間になりたいです。

また、今回の国際大会出場にあたり温かいご支援、ご声援をいただいたことにより、全力で試合に臨むことができました。多大なる応援をありがとうございました。



左から宮原選手、多々納選手、松尾選手



松尾選手(右)



贈呈式

「アジアパシフィックカップ」カヌースプリントジュニア&U23世界選手権大会出場

会長激励費贈呈

島根県立島根中央高等学校 カヌー部

石川県小松市で開催されたアジアパシフィックカップに出場した山下佟大さんと佐脇瑠南さん、ポルトガル・モンテモルで開催されたカヌースプリントジュニア&U23世界選手権大会に出場した植出優さんに8月7日（木）島根中央高校校長室で竹下耕二高P連副会長が「会長激励費」を贈呈した。出場種目と結果は次のとおり。



贈呈式

○結果

山下選手

男子カヤックペア

500m 8位

男子カヤックペア

500m 4位

佐脇選手

女子カナディアンシングル

500m 3位

女子カナディアンシングル

200m 3位

カナディアンペア混合

200m 2位

植出選手

女子カナディアンシングル

500m B決勝 4位

女子カナディアンシングル

200m 予選敗退

山下選手と植出選手には、左記のように大会参加の手記を書いてもらった。

アジアパシフィックカップに出場して

島根県立島根中央高等学校 カヌー部 三年 山下佟大

僕は、石川県小松市の木場潟カヌー競技場で開催されたアジアパシフィックカップに初めて日本代表として出場しました。自分が日本代表としてプレーすることができると不安や緊張がありましたが、自分の持っている力を出し切ることができました。結果は500mペア8位、200mペア4位でした。この試合を終えて気づいたことは2つあります。

1つ目は、自分はまだ海外選手に全然通用しないんだなあと思いました。海外選手は僕と比べて体が大きく、1パドル1パドルの船の伸びがあつて自分より速いなと思いません。来年は僕も海外選手に負け

ないぐらい1パドルで船を伸ばして行けるように頑張ろうと思えました。2つ目はチームポートを他のチームの人と乗って合わせることも難しいなと思いました。最初に乗った時は、ポイントが合わず、船が横にブレて試合までに間に合うかなと思いましたが、



ゼッケン14 山下選手

引率で来てもらった堀田先生に教えてもらい、試合では練習より船をぶらさずに進めることができました。

この試合から学んだことを来年また日本代表になって世界で戦えるように、体づくりやテクニックをつけて来年の大会で活かせるように日々の練習を頑張ろうと思いました。また、日頃支えてくださる地域の方や顧問の堀田先生のおかげでこのような経験ができたことに感謝し、来年も日本代表になって活躍できるように頑張ろうと思いました。

最後になりましたが、このような経験ができたのは皆様のサポートと応援があったからです。心から感謝し、一生懸命努力し日々精進していきたいと思っています。

カヌースプリントジュニア&U23世界選手権大会に参加して

島根県立島根中央高等学校 カヌー部 三年 植出優

このたび、ポルトガル・モンテモル・オウエリョで開催されたカヌースプリントジュニア&U23世界選手権大会に、日本代表として初めて出場させていただきました。初日の日本代表として初の世界大会だったため、期待と緊張を抱えて臨みました。結果は女子カナディアンシングル500m B決勝4位、200m 予選敗退でした。

納得できる部分もありつつ、世界の壁の厚さを感じた大会でもありました。海外遠征も初めてで、自分に合った環境が不安もありましたが、現地は気候も涼しく、食事も日本と近くとても過ごしやすいです。集中してカヌーに取り組める素晴らしい環境でした。特に印象的だったのは、海外選手と並んでスタートラインに立ったときの、海外選手の体格や漕ぎの力強さに圧倒されたことです。しかし、その中でも競い合えた経験は、大きな自信につながりました。

会場はよく整備されていて、レースまでの調整期間には、いかにその環境に慣れ、自分の漕ぎを出せるかを冷静に考えて練習できたのも大きな収穫です。また、日本代表として一緒に戦った仲間からも、アシリートとしての姿勢や技術面で多くを学びました。帯同コーチの方々にも技術面を含め全面的に支えていただき、本当に実りの多い遠征となりました。

最後になりますが、今回の経験が得られたのは、日頃から支えてくださる皆様の応援とサポートのおかげです。心から感謝し、この経験を糧に、さらに成長を目指して努力を重ねていきます。



植出選手

家庭・学校・地域のつながりで築く子どもたちの未来

これからのPTA活動の在り方

令和7年度島根県幼・小・中・高・特別支援PTA合同研修会

令和7年11月29日（土）松江市の八雲アルパホールを会場に、幼・小・中・高・特別支援PTAの会員110名（高P連関係者26名を含む）が参加し、合同研修会が開催された。講師は筑波大学教授の浜田博文氏で以下にその概要を報告する。

1. 子ども達の未来を語るということ

現在の日本社会は、グローバル化、気候変動・地球温暖化環境破壊、持続可能な開発目標（SDGs）、少子高齢化、人口減少、多文化共生、ネット社会、人工知能（AI）など、様々なキーワードによって説明されるように複雑化多層化しており、10年後の社会がどうなっているかを正確に予測するのは困難である。

現行の学習指導要領は、社会がますます「複雑で予測困難」になることを想定しており、「主体的・対話的で深い学び」を通して、予測できない事態が起きた際にも対応できる能力を子ども達に育むことを目標としている。

2. 子ども達のいま

学校におけるいじめの認知件数や重大事態の件数に加え、不登校児童生徒の数も増加している。子ども達の将来への意識については、2023年3月に内閣府が公表した『子ども 若者の意識と生活に関する調査報告書』によれば、「自分の将来について明るい希望を持っているか」という問いに対し、「どちらかといえば希望がない」と回答した子どもが約17%あり、憂慮すべき数字と言える。一方で、明るい兆しもある。令和5年度『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』では、「自分自身に満足している」と回答した子どもの割合が平成30年度調査の45%から57.4%へと増加している。

日本は世界的に「豊かな国」と認識されているにもかかわらず、「子どもの貧困」が大きな問題となっている。この「子どもの貧困」は、児童虐待、家庭崩壊、家庭内暴力、学業不振、非行、犯罪、就職困難など、様々な問題に結びつくことがあり、学校だけで解決することが困難な「貧困の連鎖」を生み出している。

3. 子ども達の成長環境としての 家庭・学校・地域

子どもが成長していく過程を説明する概念に「社会化」がある。「社会化」とは、個人が所属する社会や集団の一員として、規範・価値観・行動様式などを身につけていく過程である。子どもは年齢を重ねるにつれて、家庭から地域社会、そして学校へと行動範囲を広げる。子ども達はこの広範な環境の中での経験を通して、社会的な規範や価値観・行動様式を身につけていく。

現代社会では核家族化と都市化の進行により地域コミュニティの衰退が進み、子育ての難しさが増大している。この現状について浜田講師は、広田照幸氏の『家庭の教育力機能が低下している』ではなく、「子供の教育に関する最終的な責任を家族という単位が一身に引き受けざるをえなくなっている」を引用し、地域全体で子育てを支える環境を整備することが極めて重要であると説いた。

4. 学校の課題状況
学校は現在、外国にルーツを持つ児童生徒の増加に伴う日本語指導の重要性の高まり、特別支援教育の推進、子どもたちが抱える生活上の様々な課題への対応、そして多様な危機管理など、多くの要因により業務がますます多忙化している。特に、教員の勤務時間については、OECD（経済協力開発機構）加盟国の中でも日本の教員の長さは突出していることが指摘されており、この状況に対応するため、喫緊の課題として「働き方改革」が進められている。

5. つながりの再構築へー子ども達の未来を見据えて
子どもを育てることは、単なる「私事」ではなく、公共の営みである。講演では宇沢弘文氏の『教育は「社会資本」である」という言葉が紹介され、この認識のもと、浜田講師は、PTA活動のあり方は単にPTAは必要か否かという議論を超えて問われていると述べた。すなわち、子ども達が大切にされ、やがて自立した社会人として未来の社会を担う存在となるように、保護者がつながりを持ち、教育という公共の営みを成立させるために必要な「協働の関係作り」の場として、PTA活動をいかに機能させるべきかが問われている、と講演を締めくくった。



合同研修会の様子

島根県高等学校PTA連合会

高校生総合保障制度

(こども総合保険)

2025年1月現在の内容です。

オンラインでも お申込みいただけます!!

(詳しくはパンフレットをご確認ください。)

選べる4プラン (2025年度版)

年間掛金【一時払】

Xプラン

18,450円

(1年分の掛金)

Gプラン

13,320円

(1年分の掛金)

Bプラン

8,260円

(1年分の掛金)

Cプラン

6,220円

(1年分の掛金)

部活で
ケガをした!車のガラスを
割ってしまった!

扶養者が事故に!!

自転車
で他人に
ケガをさせた!授業中に
メガネを壊した!

総合保障制度の特長

※プランによってセットされている補償項目は異なります。総合保障制度の詳細に関しましては、パンフレットをご覧になるか取扱代理店・扱者または引受保険会社にお問い合わせください。

- 自転車事故でお子さまが加害者になってしまった場合の損害賠償責任も国内無制限補償!
- おケガは補償期間中、1日24時間(学校が休みの日も)補償!
学校部活動中はもとより地域のスポーツクラブでのおケガにも備えられる!
- 熱中症、細菌性食中毒、ウイルス性食中毒を補償
- 学校の授業・登下校中などにお子さまが携行している身の回り品(メガネ、制服、タブレット端末等)を補償
(修理費または時価額のいずれか低い金額を補償します。自転車等一部補償対象外のものがあります。)
- オンラインで簡単に保険金請求(デジタル保険金請求)

※デジタル保険金請求の対象となる補償の有無は、加入者証にてご確認ください。

〔取扱代理店・扱者〕

有限会社メイジ

出雲市斐川町直江4888-4
(受付時間:午前9:00~午後5:00 土、日、祝日、年末年始を除く)
TEL.0120-001-230(通話料無料)

〔引受幹事保険会社〕

AIG損害保険株式会社 山陰支店

松江市伊勢宮町519-1 山陰中央新報駅前ビル6F
(受付時間:午前9:00~午後5:00 土、日、祝日、年末年始を除く)
TEL.0852-26-2781 FAX.0852-26-2776



公益財団法人 島根県育英会

大阪学生会館

大阪府吹田市千里丘中58番10号

**施設見学
体験入寮
も可能！**

令和8年度
第二期

入寮生募集

男女
10名
程度

～ 暮らしの安心が、学びの意欲を支える！ ～

2025年
12月1日(月)

2026年
3月31日(火)

最寄の千里丘駅から
大阪梅田まで15分の地で
朝・夕2食付き **月額**
5万6千円で生活できる

良さ・安心

- ▶ 島根出身の館長が在寮しており、病気・地震・風水害等の非常時には心強い
- ▶ 朝・夕の食事提供
- ▶ 相談できる同郷の仲間や先輩がそばにいる
- ▶ 家具などが備え付けで初期費用が押さえられる
- ▶ 近くに病院・コンビニ・スーパー・ホームセンターがある
- ▶ 京都や兵庫の学校も通学可能なところが沢山ある



寮生活は「孤独じゃない、でも干渉されない」

月 額 費	朝・夕2食付き 56,000円
	物価高騰が進む中、低寮費で生活と学びを応援します
入 寮 費	12万円または15万円（最短修学年数による）
応 募 格	島根県で生活経験があり、関西の大学・短大・大学院・高専（4年生以上）、専修学校（専門課程）に在学中か令和8年度進学希望者（進学先未決定でも申込可）
願 書 提出先	在学する高校又は出身高校。大学等の在学者は島根県育英会。

～ 交 通 機 関 ～

JR千里丘駅 15分 → JR大阪駅
JR千里丘駅 25分 → JR京都駅
JR千里丘駅 50分 → JR神戸駅
JR千里丘駅下車徒歩15分
阪急摂津駅下車徒歩20分



【お問合わせ先】

公益財団法人 島根県育英会 **TEL 0852-28-1981**

〒690-0887 松江市殿町8番地3 島根県市町村振興センター3階

通学圏内・通学実績のある学校




募集案内

事務局だより

第67回中国・四国地区高等学校PTA連合大会、島根大会につきましては、令和5年8月の準備委員会設立以来、総会、評議員会、実行委員会を重ねて準備を進めてまいりました。おかげさまで、令和7年7月11日（金）開催の皆様、会員の皆様の温かいご協力、並びに来賓の方々のご臨席を賜り、大会を盛会のうちに無事終了することができました。心よりお礼申し上げます。

大会当日に実施しましたアンケートの中から、特に心に残るご感想やご意見を一部ご紹介いたします。

＜記念講演＞

メカニックデザイナーという仕事を初めて知りましたが、高校生からの興味のあることをしつかり学び続け、世界的に活躍されているということで、大変貴重なお話が伺えました。地方に住んでいてもできる仕事は素敵だと思いました。

生まれ育った環境が個性となり、やがて強みとなるというお話が印象的でした。

＜高校生の活動発表＞

高校生の間でしかできないことを仲間とともに感動できる素晴らしいと感じながら、夢中になって見入っていました。

伝統文化を伝えていく活動している若い伝承者に感動しました。先輩が後輩に伝え、学校の伝統として伝えていくことを感じました。

＜研究協議＞

PTAが子供のためだけでなく、親も先生にとっても貴重な学びの場となるよう活動していることが、私たちの今後の目標です。

子供たちの話し合いの時間を持たせ、積極的に交流をはかり、子供たちのことを知ろうとしている姿勢は、ぜひ見習いたいと思います。

＜高校生の物産販売＞

各校の特色と頑張りが伝わった。生徒の学習成果の披露の場としてとても良かったと思います。

高校生が企画している、お金の流れや販売方法などを学ぶことができた。非常に良い企画だと思いました。

＜全体を通して＞

大会プログラム全てが楽しく、学びになったと思います。来年の中四国大会にできるだけ多くの方と参加したいです。

私の想像以上に楽しませていただき、また、参加者の方とも交流を深めることができ、とても楽しかったです。

来年、香川県大会にもぜひ参加させていただきたいと思いました。